

『式辞』

峠に立つとき
すぎ来し道は懐かし
ひらける道は楽しい
道は答えない
道は限りなく誘うばかりだ
峠の上の空は憧れのようにあま
たとえ行く手が決まっても
人はそこで
ひとつの世界に別れねばならぬ

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、義務教育九年間の修了、誠にありがとうございます。皆さんは今、義務教育修了という一つの峠に立っています。皆さんの目に未来はどのようなように映っていますか。今朝、通い入れたアカシヤ並木や時計台のある校舎はどんな風景に写りましたか。

今年には本当に大変な一年でした。我慢に我慢を重ね、何事にも耐え忍んできた一年となりました。戦後間もない開校の頃の状態には及ばないにしても、少なくとも私が教職生活を送った四十一年の歴史の中では、こんなにも失うものが多く、切なく悔しい思いをした学年はなかったと言えます。修学旅行、夏の総体、体育祭に柏翔祭と、その青春と情熱をかけて大きな感動と思い出を得ていたはずの数々の行事を失い、毎日の楽しいはずの給食の時間が、机の距離をとって、一人黙々と食べなくてはならない日々が一年間続きました。この緊急事態は想像を絶するものがありました。

先ほど一人一人に卒業証書を授与しました。まさしく柏中生に相応しい立派な態度で卒業証書を受けてくれました。マスク越しではありましたが、その瞳からは感謝と決意が確かに見て取れました。

私の卒業生の皆さんへのイメージは「誠実さと冷静さ」です。平たく言いなおすならば「真面目で落ち着いている学年」という印象が強いのです。

今年のような緊急事態の中では、その強みが大きい生かされた誇りに思っています。先ほど触れたように、あらゆるものが削ぎ取られ、大きな制限と制約の中で学校生活が進んでいくことになりました。素朴に授業を中心とした日々となってしまったわけですが、もともと授業と掃除にしっかり取り組める学年でしたから、目の前の日常に集中して、さらに深めていくことができたのだと思います。特に掃除については敬意を表します。「心から磨く」そして「心を磨く」その実践は、今後の人生の力となるものと確信します。そして、ぜひ後輩に受け継がれてほしいと心から願っています。

そんな真面目で落ち着いた皆さんですが、皆さんが感情を強く表出した、私には忘れられない場面が三つあります。一つは、昨年の林間学校でのキャンプファイヤー後の打ち上げ花火です。一発上がるごとに大きな歓声を上げていた姿が忘れられません。「学ぼう自然、高めよう団結、責任を持った行動を」皆さんらしいスローガンの下、欠席者ゼロ、全員参加の林間学校は大成功でしたね。二つ目は、夏の総体がなくなった代替の大会です。部によっては応援や観客もない寂しい大会でしたが、練習不足で重くなった体を感じながら、最後まで一生懸命プレーする姿に心が揺さぶられました。そして三つ目が、スポーツフェスティバルです。今年度初となった全校参加の行事を、正に三年生のリーダーシップと力で成し遂げてくれたのです。勝ち負けよりも青空の下で思い切り体を動かして、みんなが一つのことのできる喜びを噛みしめ、それまで抑えていたものを一気に発散させたような楽しげな表情が、感動とともに目に心に焼き付いています。

スポーツフェスティバルのあとは、進路実現へ向けてまっしぐらでしたが、それこそ三年生の皆さんの本領発揮でしたね。コロナへの不安を抱えながらの受験、しかも入試制度が変わる分岐点でもありました。それも持ち前の真面目さと落ち着きで立ち向かっていきました。反面、

校長面接でも緊張した真剣な面持ちで校長室に入ってくる姿も忘れられません。本当によく頑張り、自分の進路を勝ち取りました。ただ、その裏には、ご家族や周りの方々の配慮や応援があったことは忘れないうでください。三学期は一、二年生も部活動を我慢して応援体制に入ってくれました。

中学校の卒業は「巣立ち」と同意語と言えます。これまでは、小さいときから知っている友だちや地域の方々に囲まれていました。家族や先生方も細かなところまで見てくれていて、何かと手を差し伸べてくれました。特に家族には思春期真っ只中で、素直になり切れずに反抗的な態度をとってしまったこともあったと思います。そんな甘えに小言は出ても、最終的には許してくれて励ましてもらえたのではないのでしょうか。地域の方々にも、いつも温かく見守ってもらい、自分の子のように応援してくれたのではないのでしょうか。しかし、義務教育を終えた今後は、そうは行きません。もっと広く厳しい世界に歩み出していくのです。自分の力と責任で歩み続けなければなりません。そして、与えられる側から与える側に変わっていかなければなりません。

でも心配はいりません。そのために、この地域で、家庭で、学校で自分の力を培ってきたのです。「いきいき さわやか 高め合う 柏中」この柏中での誇り高き実践は、この先の世界を歩むのに十分な力となっているはずですよ。

峠に立つとき
すぎ来し道は懐かし
ひらける道は楽しい
峠路を登りつめたものは
のしかかってくる天碧に身をさらし
やがてそれを背にする
水はそこで分かれ
水に沿うて道はくだる
未知の世界を踏みさぐる道

詩人である真壁仁さんの詩から引用させていただきます。次の峠に向かう道は、それぞれ違ってくる。昇り下りの激しい道かもしれない。厳しい尾根伝いもあるかもしれない。苦しいときは、今日立ったこの柏中での峠の景色を思い出してください。昇り切った自分の力と支えてくださった方々の顔と友の顔、そして眺めた風景が新たな力を与えてくれるでしょう。

先日「夢プラン講演会」がリモートで開催され、講師のオリンピック金メダリスト鹿島文博さんから多くのことを学びました。その中に、「困難に出会い、苦しい状況に陥ったときは、初心に戻る、基礎基本に戻る」ことが大切と教えていただきました。皆さんにとってこの柏中がそんな原点となれたら嬉しいですね。また、本当でしたらこの卒業式で宇野さんと青木さんの指揮伴奏で歌うはずだった合唱曲「春風の中で」の歌詞の中に

今あなたに伝えたい「ありがとう」
あふれてくる すべての想い
心から 心から

とあります。卒業生の皆さんはとも立派な三年生でした。不安が大きな中でも普段の当たり前のことを当たり前に、柏中を引っ張ってくれました。心から感謝しています。ありがとうございます。

そして歌詞はこう続きます。

心がくじけても あきらめないように
信じて進むこと 気づかせてくれたんだ
今あなたと それぞれの道をいく
まだ見えない 未来に向かい
一歩ずつ 一歩ずつ

卒業生の皆さん、それぞれの未来に幸多かれと願います。おめでとう。

最後になりましたが、保護者、ご家族の皆様、これまで三年間の長きにわたるご支援とご協力、誠にありがとうございます。一四七名の卒業生の洋々たる前途を祝し、ますますの成長と活躍を願っております。

柏中学校の全職員を代表し、心からのお礼とお祝いを申し上げます。

令和三年三月十二日
柏市立柏中学校 校長 内田 守

